

大学生の年間支出額（平均）は、学費 116 万円、 生活費 86 万円の計 202 万円！

学費上昇の中、生活費切り詰め、奨学金受給などの動きが拡大

旺文社 教育情報センター

平成 16 年 5 月

14 年 11 月、文部科学省（以下、文科省）は全国の大学・短大・大学院の学生を対象に「学生生活調査」を実施し、その調査結果を先ごろ発表した。

14 年度の大学生（昼間部）の年間支出額は平均で、学費 116 万 1,200 円（前回調査時より 3.5%増）、生活費 85 万 6,500 円（同 8.6%減）の計 201 万 7,700 円（同 2.0%減）となった。学生は学費が上昇する中、食費など生活費の切り詰めや奨学金の受給、将来に備えた貯蓄などを行っている実態が浮き彫りになった。

調査の概要等

[調査の趣旨] この調査は、文科省が学生の生活状況や経済的実情を把握し、国の奨学援助事業の改善に資することを目的に、昭和 43（1968）年度以来 2 年ごとに実施している。

[調査時期] 14 年 11 月

[調査対象] 国公立の大学・短大・大学院の学生 5 万 3,262 人（14 年 5 月 1 日現在の学校基本調査による）。ここでは、大学生（昼間部）の調査結果のみを詳報。

[回答数] 3 万 6,588 人（回答率 68.7%）

大学生の支出状況

1. 設置者別の支出額

大学生（昼間部）の 14 年度年間支出額は平均で、学費 116 万 1,200 円、生活費 85 万 6,500 円の計 201 万 7,700 円で、前回の調査時（12 年度）と比べて 4 万 500 円（2.0%）減少した（表 1 参照）。

大学の設置者別にみると、学費は国立大 62 万 7,000 円（前回調査時より 6.8%増）、公立大 63 万 7,900 円（同 4.1%増）、私立大 131 万 7,000 円（同 2.9%増）で、国公立大全体の平均は 116 万 1,200 円（同 3.5%増）となった。

一方、生活費は、国立大 96 万 2,900 円（同 8.4%減）、公立大 90 万 5,900 円（同 3.5%減）、私立大 82 万 8,300 円（同 8.8%減）で、国公立大全体の平均は 85 万 6,500 円（同 8.6%

減)と軒なみ減少した。この要因として、次のようなことをあげている。

インターネットの接続費や携帯電話の通話料などが前回調査時(12年度)に比べて下がったこと。

学費が上昇する中、不況で親の家計も苦しく、学生は食費など生活費を切り詰めたり、将来(就職活動など)に備えて貯蓄したこと。とくに私立大生は、学費が国公立大生に比べて高いこともあり、生活費を彼らよりも切り詰めたこと、など。

大学生(昼間部)の14年度年間平均支出額(単位;円)

<表1>

区分	学 費			生 活 費			総 計
	授業料等の学校納付金	修学費、課外活動費、通学費	合 計	食費、住居・光熱費	保健衛生費、娯楽・嗜好費等の日常費	合 計	
国立大	477,400 (+7.7%)	149,600 (+4.0%)	627,000 (+6.8%)	607,400 (-8.5%)	355,500 (-8.1%)	962,900 (-8.4%)	1,589,900 (-3.0%)
公立大	485,900 (+4.3%)	152,000 (+3.8%)	637,900 (+4.1%)	525,800 (-7.8%)	380,100 (+3.1%)	905,900 (-3.5%)	1,543,800 (-0.5%)
私立大	1,138,100 (+2.4%)	178,900 (+6.3%)	1,317,000 (+2.9%)	452,100 (-11.1%)	376,200 (-5.9%)	828,300 (-8.8%)	2,145,300 (-2.0%)
国公立大平均	988,800 (+3.2%)	172,400 (+5.8%)	1,161,200 (+3.5%)	484,000 (-10.5%)	372,500 (-6.0%)	856,500 (-8.6%)	2,017,700 (-2.0%)

注.()内は前回調査時(12年度)との対増減比率(%)

2. 居住形態別の支出額

大学生(昼間部)の居住形態別に年間平均支出総額(学費+生活費)をみると、国公立大生とも、自宅外通学者(下宿・間借など)の支出総額が自宅通学者を大きく上回っており、その差は、国立大73万8,700円、公立大65万8,900円、私立大80万3,600円となっている(表2参照)。これらの差は、食費、住居・光熱費によるものが大半を占めている。

大学生(昼間部)の居住形態別の

14年度年間平均支出総額(単位;円)

<表2>

区 分	自 宅 (A)	下宿・間借、その他 (B)	自宅外と自宅通学者との差 (B)-(A)
国立大	1,128,600(100)	1,867,300(165)	738,700
公立大	1,158,900(103)	1,817,800(161)	658,900
私立大	1,810,200(160)	2,613,800(232)	803,600
国公立大平均	1,707,000	2,378,900	671,900

注.年間平均支出総額は、学費と生活費の合計。()は、国立大の自宅を基準(100)とした場合の指数。

大学生の収入状況

大学生(昼間部)の14年度年間収入総額は平均で223万7,800円と、前回調査時(12年度)に比べて8万7,600円(4.1%)増加した(表3参照)。収入総額の内訳をみると、家庭からの給付が155万6,700円と最も多く、次いで、アルバイト(35万8,700円)、奨学金(22万5,800円)、定職・その他(9万6,600円)の順になっている。家庭からの給付は、実に全体の7割を占めている。

収入額を前回調査時(12年度)と比較すると、アルバイトによる収入が1万7,400円

(4.6%)減少したのに対し、定職・その他による収入が6万2,000円(179.2%)、奨学金による収入が4万2,300円(23.1%)それぞれ増加している。なお、大学生のうち、奨学金受給者の割合は、前回調査時の28.7% 31.2%と2.5ポイントアップした。

収入総額が増加し、支出総額が減少した結果、収支差(収入総額-支出総額)は22万100円と、前回調査時に比べて12万8,100円(139.2%)も増加した。

大学生(昼間部)の14年度年間平均収入額(単位:円)

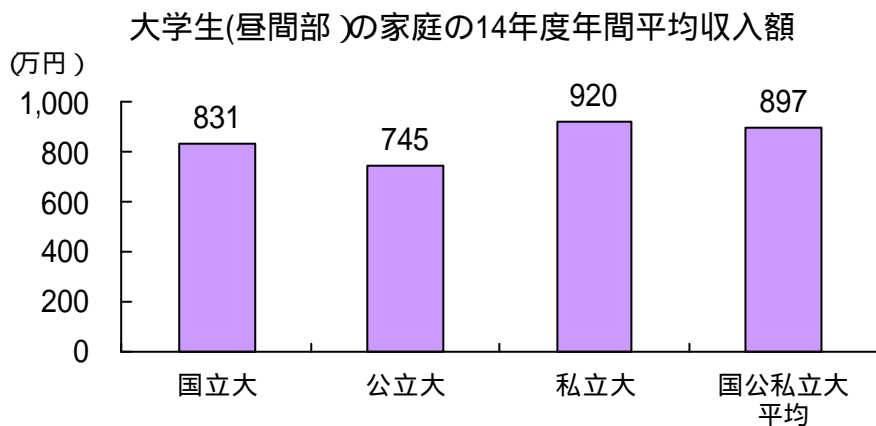
<表3>

家庭からの給付	奨学金	アルバイト	定職・その他	収入総額 (左記の合計)(A)	支出総額 (B)	収支差 (A)-(B)
1,556,700 (±0.0%)	225,800 (+23.1%)	358,700 (-4.6%)	96,600 (+179.2%)	2,237,800 (+4.1%)	2,017,700 (-2.0%)	220,100 (+139.2%)

注.()内は前回調査時(12年度)との対増減比率(%)

大学生の家庭の収入状況

大学生(昼間部)の家庭の14年度年間平均収入額(以下、家庭収入額)は897万円で、前回調査時(12年度)に比べて、56万円(5.9%)減少した(下のグラフ参照)。設置者別の家庭収入額をみると、私立大が920万円と最も多く、次いで国立大831万円、公立大745万円の順になっている。しかし、前回調査時と比べると、家庭収入額は国公立大とも減少しており、国立大1.4%、公立大11.4%、私立大6.8%のそれぞれ減。



大学生のアルバイト従事状況

大学生(昼間部)の14年度アルバイト従事率は76.8%と前回調査時(12年度)に比べて、3.2ポイントダウンしている。アルバイト従事者は、修学可能な者(家庭からの給付のみで修学可能な者)と、修学不自由、困難な者(家庭からの給付のみでは修学に不自由であったり、修学継続が困難な者、家庭からの給付がない者)とに分類される。

アルバイト従事者で修学可能な者の割合は29.7%(前回調査時より16.5ポイントダウン)、修学不自由、困難な者の割合は47.1%(同13.3ポイントアップ)となった。

一方、アルバイト非従事者の割合は23.2%と前回調査時に比べて3.2ポイントアップしている。